

第56次 日教組全国学校事務研究集会(兵庫集会)

8月7日(金)～9日(日)、兵庫県姫路市にて第56次日教組全国学校事務研究集会が開催されました。今年も全国から多くの事務職員が集まり、福井県からは15名の事務職員が参加しました。

1日目には、全体交流会が催され、楽しい会話を通して、他県の実務職員同士の交流が図れたと思います。

2日目は日教組事務職員部の渡邊春彦部長から、事務職員制度や賃金、人事評価制度について情勢報告がありました。その後、兵庫県教育大学大学院教授の富永良喜氏から「ストレス社会とのつきあい方」という演題で記念講演が行われました。メンタルヘルス対策のケアやチーム学校と心の健康と関係などの話をしていただき、有意義な時間となりました。

3日目の分科会では、各県における実践事例を元に、各県の事務職の現状や様々な取り組みをもとに話し合われました。第1分科会「学校づくりに向けた学校事務の実践」に、小浜支部国富小分会の加福信枝事務職が「自ら行動することで見えてくる学校事務職員の役割」というテーマで発表しました。コミュニケーションの大切さを感じ、自分の

方法で職場の人間関係を築き事務処理を工夫してきたことを落ち着いた口調で話されていたことが印象的でした。後の意見交換でも、同じように悩んだと共感した意見が多く出され、素晴らしい発表となったと思います。

現在、学校事務職員をめぐる状況は、正規職員の確保や適正配置、職級の設置、給与の適正化等様々な課題があります。その課題について、全国の仲間と取り組みや実践について交流し議論する中で、事務職員として何を大事にしなければならないのかを学び確認しあいました。各単組と情報交換を行うことができ、たいへん有意義な研究集会となりました。



全体会



分科会



加福 事務職員